

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要		平成13年度		根拠法令・規程等	該当なし
事業開始年度		平成13年度			
総合計画	大項目	基本目標	04	もてなしの心とたくましさのあるまちづくり	農林水産課
	中項目	基本施策	01	豊かな食を支えるまちづくり	
	小項目	施策	01	農業	
事務事業名		15	農作物獣害防止施設設置事業		問 担当課(室) 農林水産課 合 職・氏名 管理係長 大道健一 先 電 話 0869-64-1831

事業の実施	
対 象 (誰・何に対して)	被害防止の為、防護柵等を設置する農業者
目 的 (何のために)	有害獣による農作物の被害を防止し、農業者の生産意欲の向上を図る。
行 政 活 動 (どのような方法で)	有害獣による農作物の被害防止の為に防護柵を設置する農業者に対して予算の範囲内で資材費を補助。(補助率1/2以内)
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	有害獣による農作物の被害防止を図ることで農業者の生産意欲の向上につなげる。

事業の実績					
実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績	
農作物獣害防止施設設置補助金	円	1,903,699	517,097	1,442,530	
補助金交付件数	件	28	8	16	
設置距離	m	9,960	2,350	8,300	
活動					
実績					
直接事業費	千円	1,904	518	1,442	
必要人員人件費	千円	0.40人	0.10人	0.13人	708
事業費	千円	3,924	1,090	2,150	
国 県 支 出 金		1903	517	1442	
受 益 者 負 担 金					
繰 入 金					
市 債					
そ の 他 ()					
一 般 財 源		2,021	573	708	
受 益 者 負 担 比 率	%				

結果指標名		単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
結果指標①	設置距離	説明			
	結果指標量	m	9,960	2,350	8,300
	対前年対比	%	-	23.6%	353.2%
	活動コスト	円	3,924,000	1,090,000	2,150,000
結果指標②	単位当たりコスト	円	394	464	259
	結果指標量	説明			
	対前年対比	%			
	活動コスト	円			

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
設置距離	目標値(A)	-	-	-	-
	実績値(B)	9,960	2,350	8,300	到達目標年度
	達成率(B/A)				
成果指標設定の考え方・式や説明					
被害防止に向けた効率的な設置方法を指導し、地区によって異なる被害状況に柔軟に対応するため、到達目標値は設定できない。					

事業の目的、対象、内容を考えてから目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	妥当性評価<A~E> B 判定理由・課題認識 農業者からの要望が多い事業であり、事業の実施は妥当である。
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い <input type="checkbox"/> 説明 有害獣による農作物被害が増加傾向にあり、要望が多い。	
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価<A~E> B 判定理由・課題認識 補助金交付にかかる事務作業等において、最適な手段を検討し、コスト削減に努める。
	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	有効性評価<A~E> B 判定理由・課題認識 有害獣による農作物被害が増加傾向にある中で、被害防止に向けた本事業の実施は妥当である。
有効性の評価	市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	

平成21年度の状況		結果指標量①		結果指標量②		成果指標量	
目標値	結果指標量①						
状況		拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止
説明			○				
農業者からの要望が多い事業でもあり、前年度と同様に今後も継続していく。被害防止に向けた効率的な設置方法を指導し、地区によって異なる被害状況に柔軟に対応するため、到達目標値は設定できない。							

総合評価		評価区分<A~E>
有害獣による農作物被害は増加傾向にあり、農業者からの要望も増えている。こうした状況の中で本事業の実施により被害防止を図ることは、農業者の生産意欲の向上を促進し、農業振興につながるものと考えられる。		B

平成22年度以降の方向性・内容		結果指標量①		結果指標量②		成果指標量	
方向性		拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止
説明			○				
有害獣による農作物被害は増加傾向にあり、効率的な被害防止について見直しを実施する。							
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果			
	効率性	適切な設置方法を指導し、効率的な被害防止を図る。	随時	効率性の向上			